

平成27年度

市民ハクチョウ調査報告書

新潟市では、平成26年10月に市の鳥「ハクチョウ」を制定しました。

市の鳥「ハクチョウ」が市内のどこで生活しているのかを調べるため、市民の皆様呼びかけ「市民ハクチョウ調査」を行いました。ハクチョウは秋に北から渡ってくるために、1年中見ることはできません。ハクチョウがいない夏の時期には、身近に見ることができる野鳥として、ツバメを対象とした「市民ツバメ調査」を実施しました。

本報告書では、これら二つの調査結果とツバメ、ハクチョウが新潟市内でどのように生活しているのかをご紹介します。

●市民ツバメ調査の実施概要

対象種 新潟市内で見られるツバメ科の種類
(ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ショウドウツバメ)

対象地域 新潟市内全域

調査期間 平成27年5月～8月



●市民ハクチョウ調査の実施概要

対象種 新潟市内で見られるハクチョウ (コハクチョウ、オオハクチョウ)

対象地域 新潟市内全域

調査期間 平成27年10月～平成28年2月

後援 新潟県野鳥愛護会、にいがた野鳥の会、日本野鳥の会新潟県



新潟市の鳥「ハクチョウ」シンボルマーク

みんなで創ろう
環境モデル都市
NIGATA CITY

「市民ツバメ調査」、「市民ハクチョウ調査」には、たくさんの方からご参加いただきました。

「市民ツバメ調査」、「市民ハクチョウ調査」の目的

新潟市では、これまでに283種類もの鳥類を確認しています。現在日本で記録されている鳥類の種類は633種と言われており、新潟市では全国で記録された種類のうち約45%もの種類を確認していることとなります。一つの市町村でこれだけの種類が確認されているのは、全国的に見ても非常に珍しいことです。様々な鳥類が本市で生活していますが、市民の皆様からも本市の自然環境に目を向けていただき、野生の生きものに関心を持っていただくため、今回は身近に見ることができる「ツバメ」と「ハクチョウ」の2種類を対象に、皆様と一緒に調査を行いました。

ツバメってどんな鳥

ツバメは、春になると新潟市に渡ってくる渡り鳥です。南から渡ってきた後に日本で子育てを行い、秋になると東南アジアやオーストラリアの北部に帰って行きます。

日本に渡ってくると、家の軒先や商店街の店先など、私たち人間が生活している近くの場所を探して巣を作り、子育てを行います。人間が生活する近くで子育てを行うのは、カラスやヘビといった外敵から身を守るためと言われています。

ツバメは昔から人間に身近な鳥として親しまれてきましたが、近年では、営巣環境などが変化してツバメが減ってきていると言われています。その原因としては、

- ①街中での捕食する餌（昆虫類）の減少
- ②営巣できる住居の減少
- ③営巣する巣材（材料）の減少

など様々な要因があるようです。しかし、残念なことにツバメの巣ができて、汚れるのを嫌って人間が撤去してしまう事例も増えていると言われています。昔は、家にツバメが巣をかけるとその家は幸せになるとか、店の軒先に巣ができると商売繁盛となるなど、ツバメを大切にす言い伝えもたくさんありました。

ツバメに関心を持ってもらい、ツバメを慈しむ気持ちを持ってもらうためにも、本調査では、広く市民の皆様にも協力を呼びかけ、ツバメがどこで生活しているのか調査を行いました。



ハクチョウってどんな鳥 ～新潟市の鳥制定までの経緯～

ハクチョウは、秋になると新潟市に渡ってくる渡り鳥です。夏にシベリアなどで子育てを行った後、家族で渡ってきて冬の間日本で生活しています。

夜は潟や河川などの水辺をめぐら（休息をとる場所）とし、昼は田んぼで落ち穂や二番穂、畔に生えている植物などの餌を食べて生活しています。

日本には、コハクチョウとオオハクチョウの2種類のハクチョウがやってきますが、新潟市は、冬に滞在するコハクチョウの数が全国で1番多く、その数は1万羽を超えることもあります。

新潟市では、これまでに市内で確認されているすべての鳥類を対象に、新潟市の鳥にふさわしい種類について、平成26年8月から9月にかけて新潟市の鳥総選挙（市民投票）を実施しました。市民の皆様からの投票を集計した結果、北区以外の各区ではいずれも「ハクチョウ」が得票数でトップとなり、総得票数3,549票の約40%もの得票数を獲得しました。

投票時に頂いた投票理由や検討委員会の皆様からは、

- ①美しく、親しみがあり、ビッグスワンやアルビレックスなど既に市の象徴となっている。
- ②コハクチョウの越冬数が日本一であり、市内各地で観察できる。
- ③冬の風物詩となっている。
- ④里潟や河川など本市の自然環境を象徴する。

といった意見が多数あったことから、田園型政令市をかかげる本市の鳥にふさわしいと判断しました。

新潟市の鳥に選ばれた「ハクチョウ」を皆様にご存知いただくことが、本市の豊かな自然環境に触れるきっかけにもなることから、今回市民ハクチョウ調査を行いました。



調査方法

【市民ツバメ調査】

- 対象種：新潟市内で見られるツバメ科の種類
(ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ショウドウツバメ)
- 調査期間：平成27年5月～8月

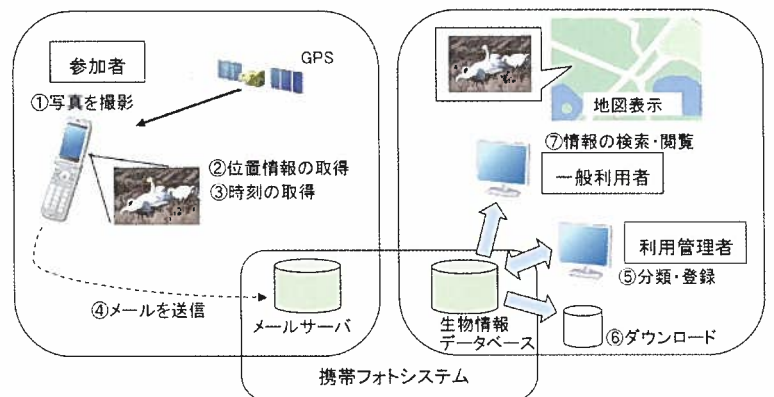


【市民ハクチョウ調査】

- 対象種：新潟市内で見られるハクチョウ
(コハクチョウ、オオハクチョウ)
- 調査期間：平成27年10月～平成28年2月

【共通項目】

- 対象者：市内に在住、在勤の方
 - 対象地域：新潟市内全域
 - 調査方法：市民の皆様が次の方法で調査に参加いただけるよう呼びかけました。
1. GPS機能付き携帯電話、スマートフォン、またはGPS機能付きカメラを使用して報告
 - ①携帯電話のGPS機能を有効にして、調査対象種や調査対象種がいる風景の写真を撮影。調査対象種が遠かったり、写っていない場合でも可能としました。
 - ②撮影した写真をメールに添付し、件名を「市民ツバメ（またはハクチョウ）調査」として、その時の様子や種名（分かれば）などを入力し指定のアドレスまで送信。GPS機能付きカメラで撮影した場合は、写真をパソコンなどに取り込み、メールに写真を添付した上で送信。
 2. GPS機能のない携帯電話、カメラを使用して報告
 - ①調査対象種や調査対象種がいる風景の写真を撮ります。調査対象種が遠かったり、写っていない場合でも可能としました。
 - ②撮影した写真をメールに添付し、件名を「市民ツバメ（またはハクチョウ）調査」として、どこで撮影したかその地名とその時の様子や種名（分かれば）などを入力し指定のアドレスまで送信。カメラで撮影した場合は、写真をパソコンなどに取り込み、メールに写真を添付した上で送信。
 3. 目撃情報を報告
 - ①調査対象種がどこにいたのか、その地名とその時の様子や種名（分かれば）などを記録。
 - ②ハガキ、FAX、メールに必要な事項を記述し、指定の住所などに送付。
- 調査時の注意点
 1. ツバメやハクチョウなどを撮影の際には、個人のお宅や民間の施設（公共施設は除く）が特定されないようご注意ください。個人情報などが特定される写真の場合は、お送りいただいても公表できないこととしました。
 2. 撮影や観察する時など、以下の点に配慮をお願いしました。
 - ①ツバメやハクチョウの撮影時に、近づきすぎると驚いて逃げってしまうため、被写体とは適切な距離をとる。
 - ②ツバメやハクチョウの撮影や観察の時などは、温かい気持ちで見守る。
 - 調査協力など
 1. 調査結果は、富士通株式会社が運営する「携帯フォトシステム・クラウドサービス」を利用し、「生物情報収集システム」のホームページでも随時閲覧できることとしました。
 - 「生物情報収集システムの閲覧方法」
 - ①インターネット上で「生物情報収集システム」のページを開く。
URL: <http://bio.ikimonosirabe.info/psystem/>
 - ②「閲覧する情報を探す」を選択。
 - ③検索条件の指定の項目の中の「テーマ」から「市民ハクチョウ調査」を選択。
 - ④撮影日を2015年4月1日以降に設定し、「一覧表示する」をクリック。
 - 「携帯フォトシステム・クラウドサービス」とは位置と時刻の情報が埋め込まれた画像を電子メールに添付し、サーバに送信することにより、データを一覧表や地図にマッピングして閲覧できるシステム。「携帯フォトシステム・クラウドサービス」は富士通株式会社から提供いただきました。



携帯フォトシステム・クラウドサービスのイメージ

2. 市民ハクチョウ調査では、にいがた未来ポイントの対象事業としました。

市民ツバメ調査

調査結果

- 報告件数：全148件
- 報告種数：確認されたツバメ科の鳥類は、ツバメ1種類でした。
- 報告地点：市内全域で広く報告がありました（8区全ての区から報告がありました）。
確認のあった地点は以下の通りです。

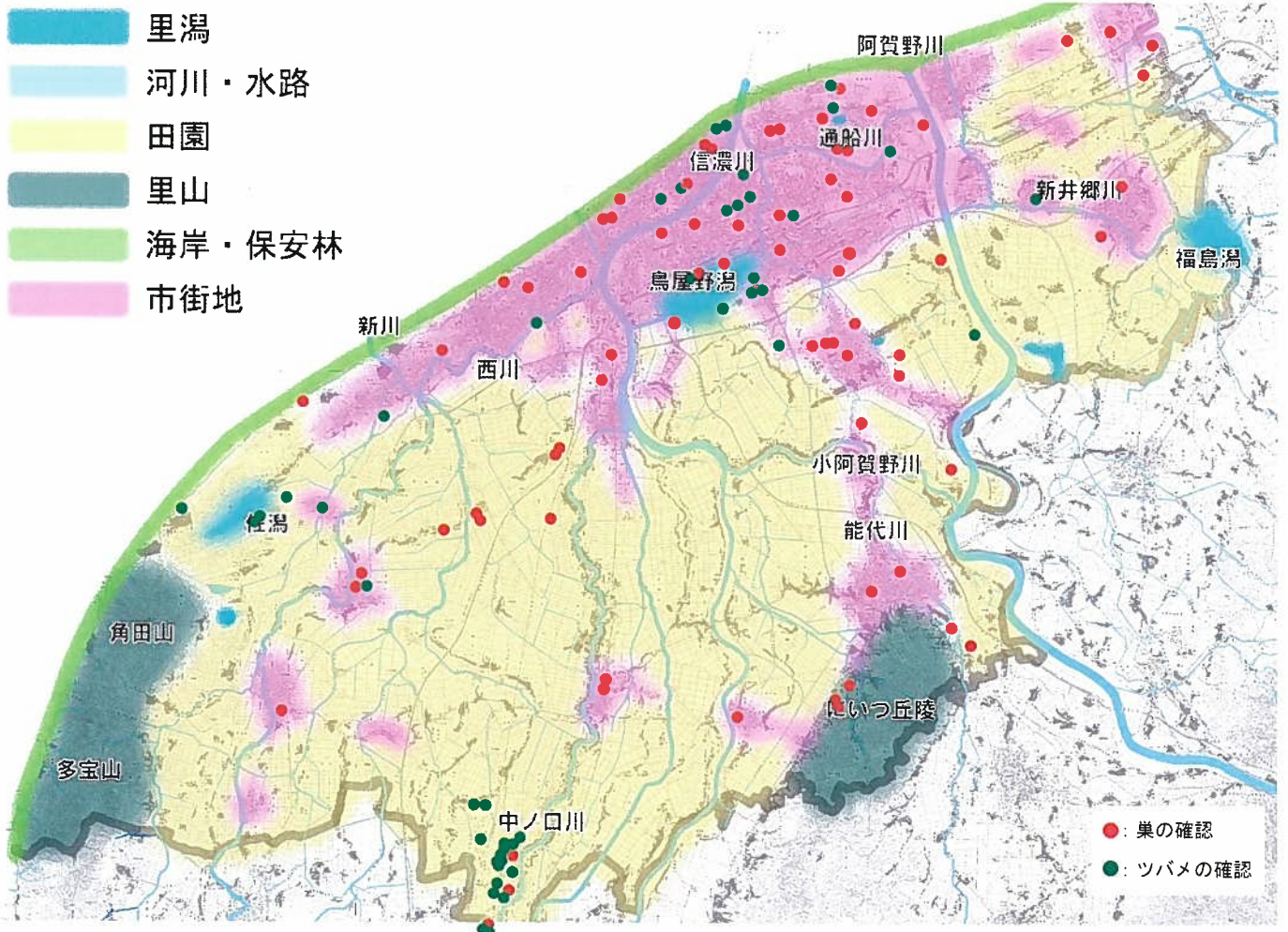
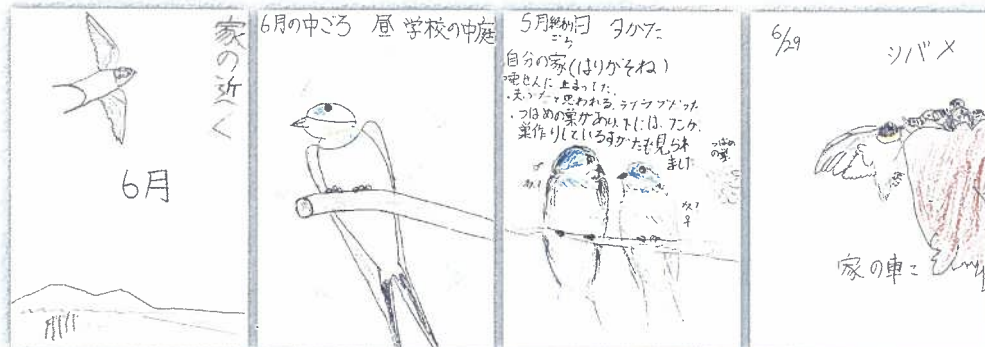


図. 市民ツバメ調査で報告いただいた地点

調査から分かったこと

- ・ 近年ツバメが少なくなっていると言われていますが、調査では都市部から農村部まで、広く写真や目撃情報などの報告がありました。
- ・ 報告いただいた際のコメントには、ツバメに対して非常に温かい想いがこもったものが多くありました。
- ・ 送られた写真の中で巣が写っているものを見ると、木造家屋では壁に直接巣をかけている写真が多かったですが、最近の外壁材などの場合は巣がかけにくいこともあり、排気口や電灯のかさなどを上手に利用して巣をかけている写真なども見られました。



平成26年度に「子どもハクチョウ調査」に協力いただいた西蒲区の中之口東小学校からは、本調査にも学校単位で参加いただき、イラストも描いて報告してくれました。
(いただいたイラストの一部をご紹介します)

参加者からのコメント（抜粋）・写真など

- 新潟バイパス 豊栄PA利用者
トイレ内の天井4～5か所です。男子、女子トイレどちらもよくこんなところに・・・
毎年同じ所に巣を作ります。管理者も糞対策に雨傘を巣の下にかけています。天敵対策には恰好な場所です。カラスやヘビも入ってこれません。トイレ利用者は不思議そうに上を見上げます。
- 北区在住：女性
私が働いている会社（新潟市北区）の蛍光灯に巣を作っています。事務所の一階が駐車場ということもあり、雨除けにはちょうどいいのかもしれませんが。
5年ほど前から、毎年巣を作るようになり、この時期は毎日親鳥がヒナのために餌を調達している様子を見ることがができます。今年も3つできていました。縁起のよい鳥ということで、これからも温かく見守っていきたいと思います。
- 中央区在住：男性
自宅のあるマンションに平成23年からツバメが営巣するようになり、今年で5年目になります。マンションではツバメ支援グループを組織し、接近する人への注意、フンの始末等を行い、渡来から子育て、渡去までの状況を「スワローズ家の子育て奮戦記」として記録しています。
- 北区在住：女性
場所は新潟市北区の老人ホーム。5月末から卵を温めて、6月8日に雛が4～5羽誕生しました。6月20日現在では3羽の雛を確認しました。老人ホームの入居者の方々もツバメの成長を、目を細めて見守っています。
- 市内高校（江南区）
例年、校舎正面玄関前屋根の内側壁面に営巣し、ツバメの子育てが見られます。今年は3個の営巣が確認されています。校長先生は「今年もツバメがやってきました」、「無事に巣立ちました」など、折に触れ職員朝会でツバメの様子を報告されています。
- 市内幼稚園（東区）
幼稚園のホールの屋根の軒下に、毎年子育てにつばめがきているのでお知らせします。
今年も壊れかけた巣を修復して、子育てがさかんなつばめの様子が見られています。幼稚園の子どもたちも観察しています。現在は5羽の幼鳥に親がエサを運び育てている最中です。
2年前は、飛ぶ練習をしている子どもつばめがホールに何回も入ってきては、なかなか外に出て行けないというちょっとした事件もありました。



トピックス① ツバメ豆知識

〈ツバメの生活場所〉

普段は電線などにとまり、飛びながら昆虫などを捕まえます。子育ての時には、盛んにエサを巣に運んでいる姿を見ることができます。子育てが終わり南に渡る前には、ヨシ原に集まって集団でねぐらをとります。

〈ツバメの巣作り〉

昔の木造建築は、ツバメの巣の材料である泥が付きやすかったため、巣を作るのに適していたようです。最近の家は外壁も泥除け加工が施されており、巣を作るのも難しくなっているようです。

〈ツバメの鳴き声〉

「チュビッ、ツビッ」など早いテンポで鳴きます。鳥の声を人の言葉で表す「聞きなし」では“虫食って土食ってしぶーい”と表現されます。

〈ツバメの仲間〉～新潟市ではツバメを含めて4種類の仲間を見ることができます～

- イワツバメ：ツバメより小さく、顔の所に赤い模様がありません。崖地などに巣を作りますが、街中の人工構造物でも巣を作ることがあります。
- コシアカツバメ：ツバメよりも大きくて尾も長く、腰は赤茶色です。ツバメよりも数が少ない珍しいツバメです。
- ショウドウツバメ：小型のツバメで、北海道で子育てをします。市内では8～9月頃移動の途中に群れを見ることがあります。



市民ハクチョウ調査

調査結果

- 報告件数：全196件
- 報告種数：写真をお送りいただいた161件の中で、写真から種名を確認した結果、コハクチョウと分かったものが79件、オオハクチョウと分かったものが1件、写真からは種類が判別できなかったものが72件、目撃場所のみでハクチョウの写っていないものが9件となりました。
- 報告地点：確認のあった地点は以下の通りです。

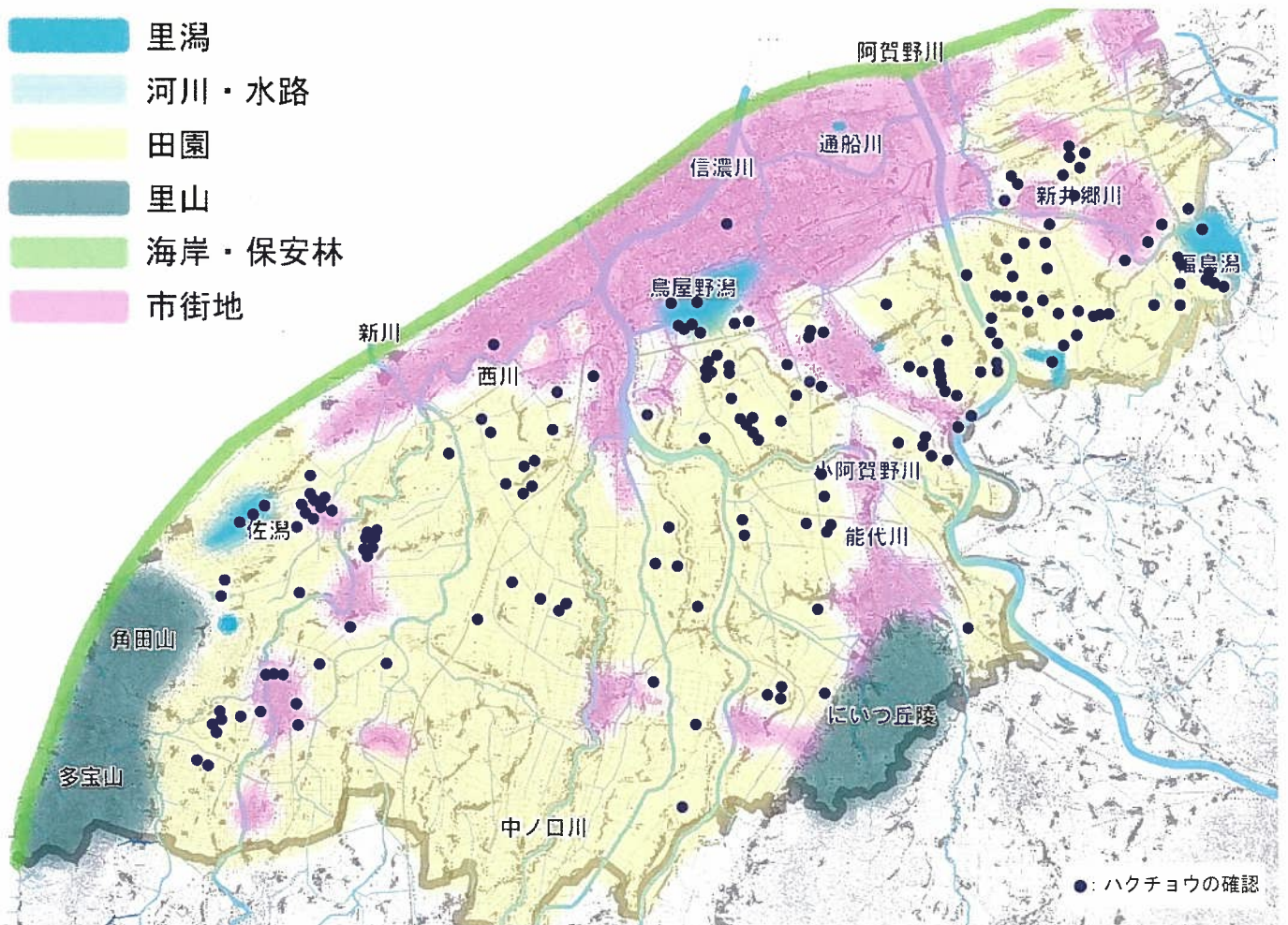


図. 市民ハクチョウ調査で報告いただいた地点

調査から分かったこと

- ・ 確認地点は田んぼが多く、潟や河川の水辺環境でも多く確認されました。
- ・ 目撃情報では、市街地で上空を飛翔しているものもあり、中には新潟駅周辺の報告もありました。
- ・ 田んぼでは、100羽以上の群れも見られましたが、家族群や少数の群れでいるところも多く目撃されています。
- ・ 市民ツバメ調査同様、ハクチョウに対して温かいコメントがたくさんありました。



4 ページの市民ツバメ調査の結果と市民ハクチョウ調査の結果を比較すると、ツバメの報告地点は市街地が多く、ツバメは私たち人間の生活の中で身近に見られることが改めて分かりました。また市民ハクチョウ調査の結果からは、市街地周辺に広がる田園地帯で多く見られています。ハクチョウは、朝晩は潟や河川にいるものの、人間が活動している日中は田んぼにいるために、ハクチョウを観察する場所として昼間は田んぼが最適であることが分かります。ハクチョウは他の鳥類と比べるとおおらかな性格ではありますが、観察の際には適度な距離を保ち、驚かさないように気を付けてください。

参加者からのコメント（抜粋）・写真など



●中央区在住：男性

晴れて暖かい日でしたので、窓を開けていました。鳴き声でハクチョウと気づき、ベランダに出ると新潟駅方向約150m位の高さの所を30数羽が一行になり飛んでいました。

●西区在住：女性

（左側写真の説明文として）強風の中を一生懸命飛んでいます。人間も頑張って生きなくては。

●西区在住：男性

初めて見る大群に、何事ぞ！と思いました。

●江南区在住：男性

江南区和田の道路を車で走行していたら、すぐ近くの田んぼでざっと30羽以上のハクチョウが、1箇所に集まり食べ物をついばんでいるようでした。民家のある道路のすぐそばなのにあまりの数で驚きました。美しく、壮観な光景でした。

●南区在住：女性

新幹線の通り過ぎる音に振り返ったり、座ったままえさを食べたり、ひなたぼっこのようにゆったり座ったり、思い思いに過ごしている様子でした。

●西区在住：男性

我が家の上空を、7羽隊列をして飛んでいました。



トピックス② 新潟県水鳥湖沼ネットワークの活動

福島潟、鳥屋野潟、佐潟と阿賀野市瓢湖の4湖沼では、市民の有志の皆様が平成12年に新潟県水鳥湖沼ネットワークを結成し、ハクチョウやガン類の飛来数調査を同時に行ってきました。

越後平野は、隣接する湖沼と水田が一体となっているひとつの広大な湿地ととらえることができ、水鳥の生息地としてもとても重要であることが活動を通じて分かってきました。

平成25年度からは、4湖沼に加えて阿賀野川の大阿賀橋付近でも調査を行い、現在では5地点で越後平野のハクチョウやガン類の飛来数を調べています。

平成27年度は11月に25,000羽を超える数を記録するなど、これまでにないハクチョウの数を記録することができました。

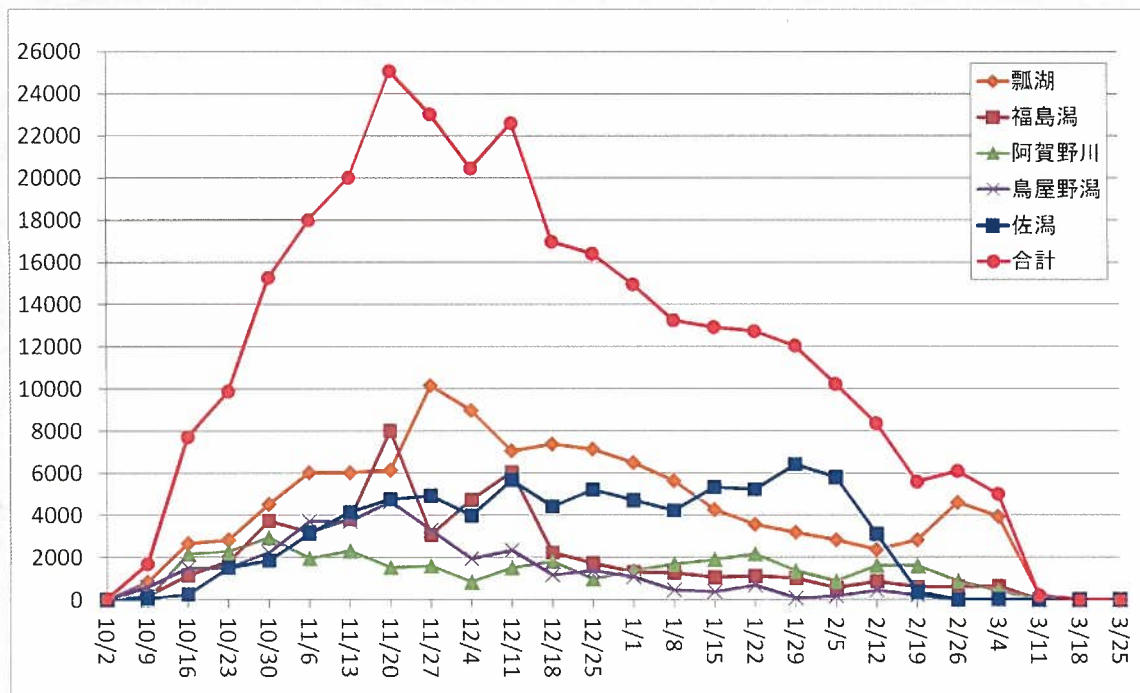


図. 平成27年度 越後平野のハクチョウ飛来数

ツバメと人間の共生

ツバメは子育てを行う時に、私たち人間を大切な味方と考えてくれています。しかし、ツバメ同様人間にとってもツバメは大切な生きものです。農村部では、稲作などの害虫を食べてくれる鳥として大事にされていました。また、民家や商店の近くでツバメが生活することで、ハエや蚊といった衛生的に敬遠される昆虫類を食べてくれています。このように、ツバメのような、人間にとって役に立つ鳥を、かつては「益鳥」と言っていました。

現在、生きものを守るためには、生物多様性を保全する考え方が基本となっています。生物多様性は、生活する生きものすべてがかかわって生態系を作っている、という考え方から成り立っているため、生物多様性保全の観点からは、人間だけに役に立つ「益鳥」という言葉はなじみませんが、私たちの生活様式が変わってきたことによって、ツバメが大切にされなくなってきていることは非常に残念なことです。

しかし、今回の市民ツバメ調査で寄せられた報告からは、多くの市民の皆様がツバメを温かく見守っていただいていることもよく分かりました。身近に見られる生きものとして、これからもツバメのいる風景を皆様とともに大切にしていきたいと思えます。



ハクチョウと人間の共生

本市の代表的な自然環境である「里潟」、「里山」、「田園」のうち、「里潟」と「田園」の2つの環境を上手に利用しているハクチョウは、本市の自然環境の豊かな指標種（シンボル）としてあげられます。

ハクチョウは、水辺と田んぼが広がる新潟市が大好きです。ハクチョウのような大きな野生の生きものが、人間が生活しているすぐ近くで見られることは、全国でもとても珍しいことです。冬に県外から新潟市にいられた方は、ハクチョウが身近に見られることに驚く方がたくさんいます。またハクチョウというと、阿賀野市の瓢湖が有名ですが、新潟市にも瓢湖に負けない数が越冬に訪れており、新潟市の鳥としてもっとPRしていく必要があります。

新潟市では、ハクチョウと人間と一緒に生活できる政令市として、自然環境の魅力を情報発信していきます。



新潟市の取り組み

右の絵は、平成23年度に生物多様性ワークショップに参加いただいた市民の皆様からの意見をもとに、新潟市の50年後の理想の姿を図にしたものです。この中にもハクチョウが登場しています。

新潟市では、このように様々なご意見を聴きながら、平成24年3月に「にいがた命のつながりプランー新潟市生物多様性地域計画ー」を策定しました。そして計画の中では、本市の豊かな自然環境を保全するために4つのシンボルプロジェクトを掲げました。その考え方の土台となったものが「ハクチョウが飛び交う環境の保全」です。

毎年冬になるとハクチョウが訪れる本市の自然環境を守ることが、本市の生物多様性の保全をすすめることでもあり、これから先も、ハクチョウが飛び交う都市であるよう、市民の皆様と一緒に自然環境の保全活動に取り組んでいきます。

